

# 2011年度1Q決算の概要

2011年7月28日  
住友金属工業株式会社

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

本資料には、新日本製鐵株式会社および住友金属工業株式会社間の経営統合の成否およびその結果にかかる「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた両社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しています。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示される両社または両社のうちいずれか一社（または統合後のグループ）の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。両社は、本資料の日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、今後の日本国内における公表および米国証券取引委員会への届出において両社（または統合後のグループ）の行う開示をご参照ください。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) 日本国内外の経済情勢。
- (2) 鋼材需給、原材料価格、為替相場の変動。
- (3) 借入金、社債等の金利の変動、その他金融市場の変動。
- (4) 有価証券等の保有資産（年金資産を含む）価値の変動。
- (5) 事業活動にかかる法令その他規制（環境規制を含む）の変更。
- (6) 海外の主要市場における関税引き上げ、輸入規制等。
- (7) 災害、事故等に起因する事業活動の停止、制約等。
- (8) 経営統合の詳細について当事者すべてが満足する合意に至ることができないことその他本件取引が実施できないこと。
- (9) 統合後のグループにおいてシナジーや統合効果の実現に困難が伴うこと。

なお、本資料中、「粗鋼生産量」「鋼材販売量」「鋼材平均価格」と記載しているものは、(株)住友金属小倉、(株)住友金属直江津、(株)住金鋼鉄和歌山を含んだ数値となっております。

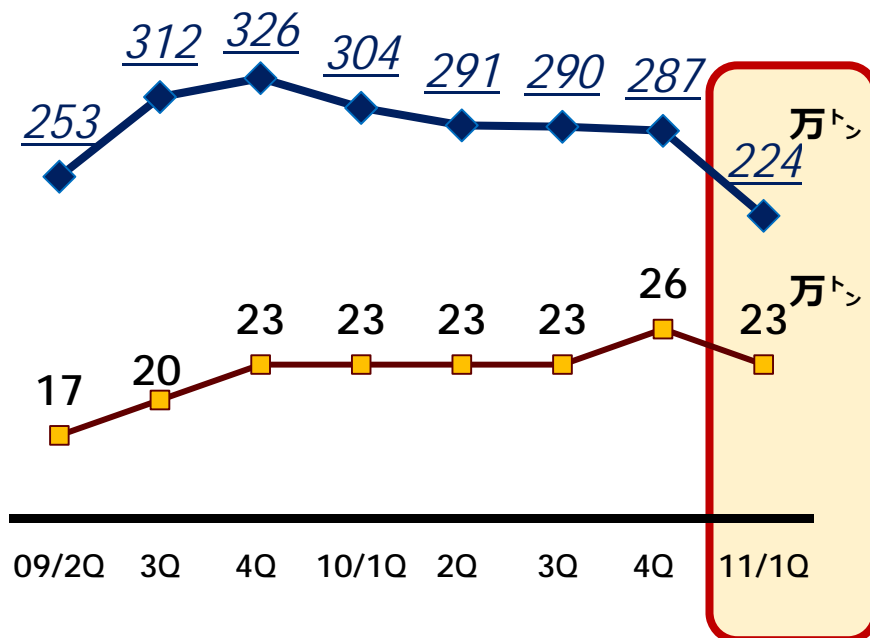
本資料中のEBITDAは、営業利益+減価償却費（有形）で算定しております。

# 11年度1Q決算ハイライト

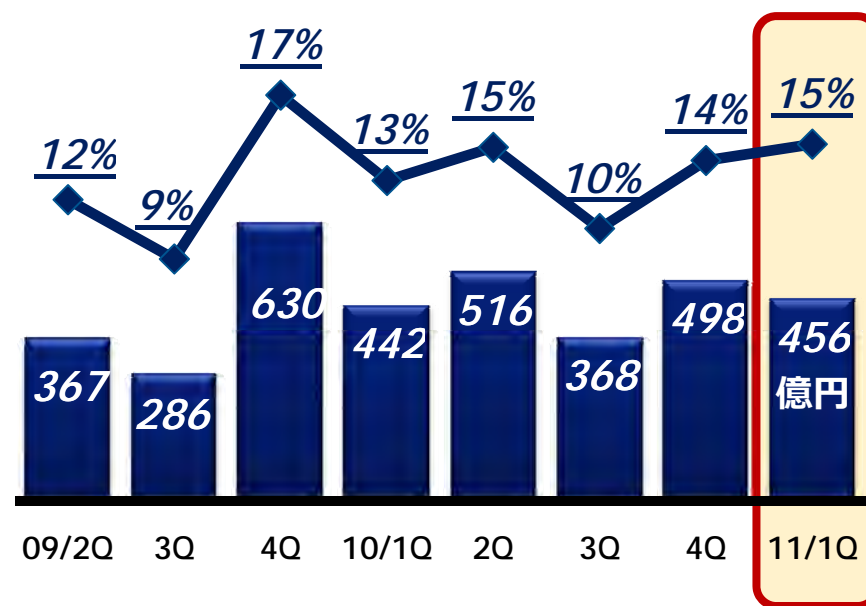
	(前年同期比)
● 売上高	3,068億円 (△347億円)
● 営業利益	168億円 ( 25億円)
● 経常利益	190億円 ( 95億円)
● 当期利益	32億円 (△12億円)
● EBITDA	456億円 ( 14億円)

- 震災で被災した鹿島製鉄所も5月末には全工場  
で平常稼働体制に復帰
- シームレスパイプ市況は回復トレンドが継続
- 営業利益は、震災影響による大幅減産はあった  
が、リカバリープランによるコスト改善強化に  
加え、鋼管のスプレッド改善等により前年同期  
比増益を確保

全社販売量と  
シームレスパイプ販売量の推移



四半期別EBITDAと  
EBITDAマージン推移



# 震災被害額とリカバリープランのアップデート

## 1. 震災被害額 ( ) は4/28時点の見通し

億円	10年度		11年度		2カ年計	
経常利益への影響	△ 20	(△ 50) △ 40	(△ 70)	△ 60		
原状回復費用	△ 490	△ 0		△ 491		
操業度損失	△ 81	△ 118		△ 200		
資産の滅失損失他	△ 48	△ 3		△ 52		
特別損失	△ 620	(△ 150) △ 123	(△ 770)	△ 743		
税前利益への影響	△ 640	(△ 200) △ 163	(△ 840)	△ 803		
					復旧設備投資	
					(△ 200)	△ 200

上記の内、税前キャッシュフローへの影響

(△ 1,000) △ 1,000

## 2. リカバリープラン

億円	4/28 見通し	
	リカバリー内容	内11年度中に実行
設備投資時期繰延べ等	300	90
コスト/経費圧縮の上積み	550	240
10年期末・11中間配当水準	140	140
固定費他	30超	30超
税前キャッシュフロー改善計	約 1,000	500超

11年度  
見込み

580程度

# 鉄道部品の世界戦略が始動

## 米国唯一の鍛造車輪・車軸メーカー Standard Steel社の買収

現在は輸入品・鋳鋼品が主流の米国車輪市場  
(日本の約12倍の規模)も高速化・高荷重化により  
高性能車輪のニーズが増加

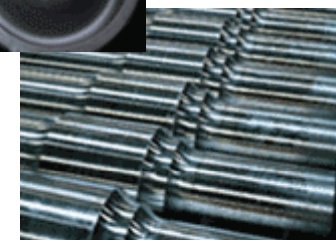
- 世界最高品質の当社素材製造、車輪製造の技術・設備を導入
- 日米両極体制を確立し、安定供給体制も確保

世界TOPの車輪メーカーとしてグローバルに  
事業を展開していく

# 買収の概要

6

会社名	Standard Steel, LLC
所在地	ピッツバーグ (本社),バーナム (工場)
設立	1795年 (216年の歴史)
売上高	209百万ドル (2010年)
従業員数	620名 (2011年2月末時点)
事業内容	鉄道車輪・車軸の製造・販売
生産能力	車輪 約30万枚/年 (cf.当社能力 約24万枚/年)
買収金額	325百万ドル
株主構成	当社90%,住友商事株式会社10%

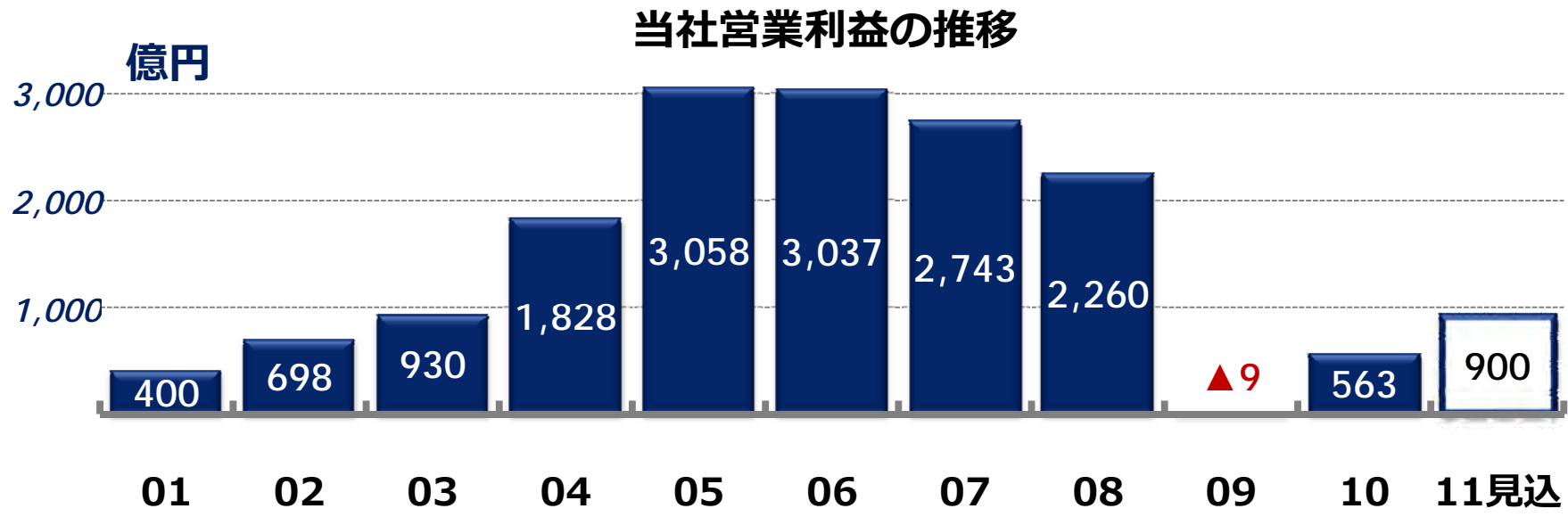


クランクシャフトは**世界4極**、車輪は**世界2極**体制で  
グローバルトップメーカーへ

# 11年度通期業績見通し

		(前年同期比)
● 売上高	15,300億円	(1,275億円)
● 営業利益	900億円	( 336億円)
● 経常利益	1,000億円	( 659億円)
● 当期利益	500億円	( 571億円)
● EBITDA	2,150億円	( 324億円)

- 当社主力分野であるエネルギー向け需要は、天然ガス開発向けシームレスパイプ等を主体に好調
- 自動車向け需要は急速に回復、下期販売数量は大幅増見込み
- 汎用品需給や原材料価格等の不透明要因はあるが、シームレスパイプのスプレッド改善やコスト改善等の収益改善策により、営業利益は900億円を見込む



# 11年度1Q決算実績

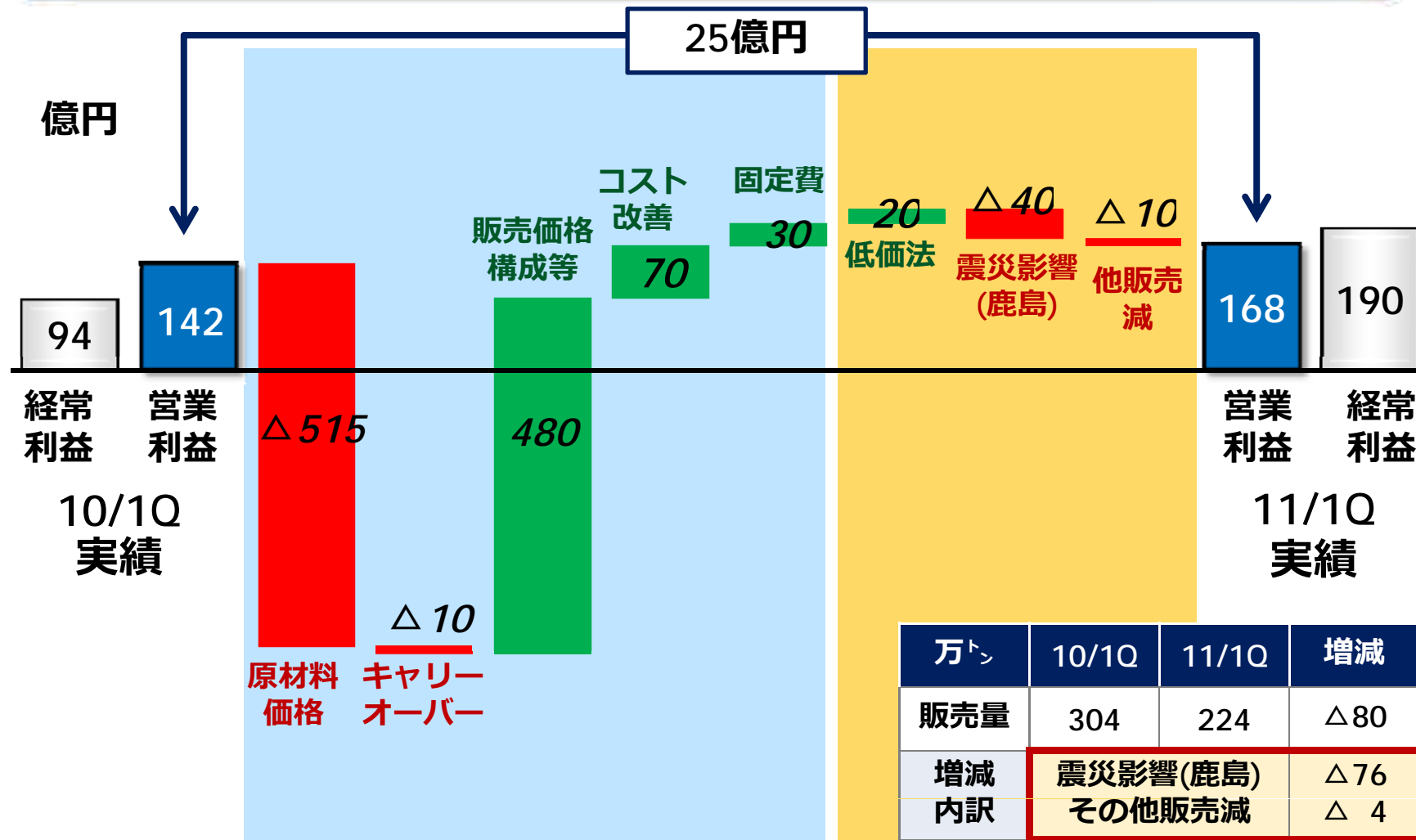


# 11年度1Q決算概要

億円	10年度				11/ 1Q	増減	
	1Q	2Q	3Q	4Q		YoY	QoQ
売上高	3,416	3,521	3,519	3,566	3,068	△347	△497
営業利益	142	204	49	165	168	25	2
経常利益	94	194	△20	71	190	95	118
特別損益	-	-	-	△620	△143	△143	477
法人税等 少数株主損益	△50	109	21	128	△14	35	△142
当期純利益	44	304	0	△420	32	△12	453
EPS(円)	0.97	6.56	0.01	△9.08	0.70	△0.27	9.78
EBITDA (億円)	442	516	368	498	456	14	△42
為替レート (円/\$)	92	86	83	82	82	10円高	-

# 営業利益増減 (10/1Q→11/1Q)

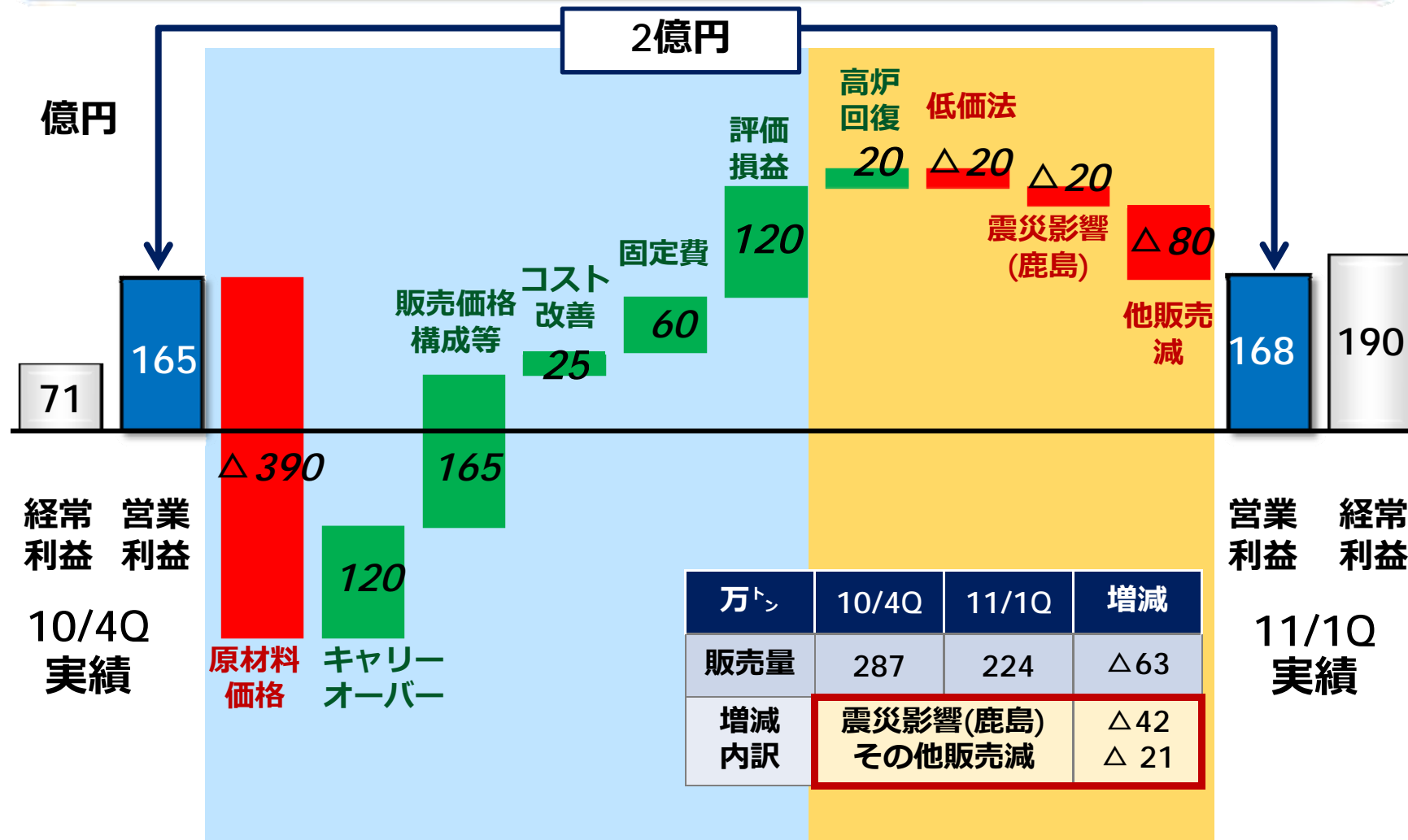
大幅な原材料高騰と震災による減産影響をシームレスパイプを主体とした価格改善とコスト改善によりカバーし25億円の増益



●持分法損益 <10/1Q> 12億円 → <11/1Q> 47億円

# 営業利益増減 (10/4Q→11/1Q)

原材料コスト上昇や、震災影響による販売数量減はあったが、価格改善とコスト改善等によりカバーし、営業利益はほぼ横ばい



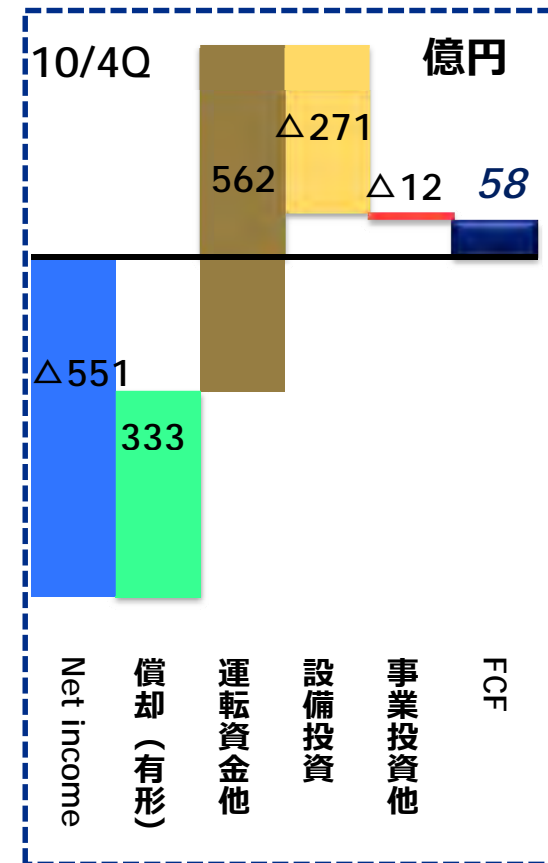
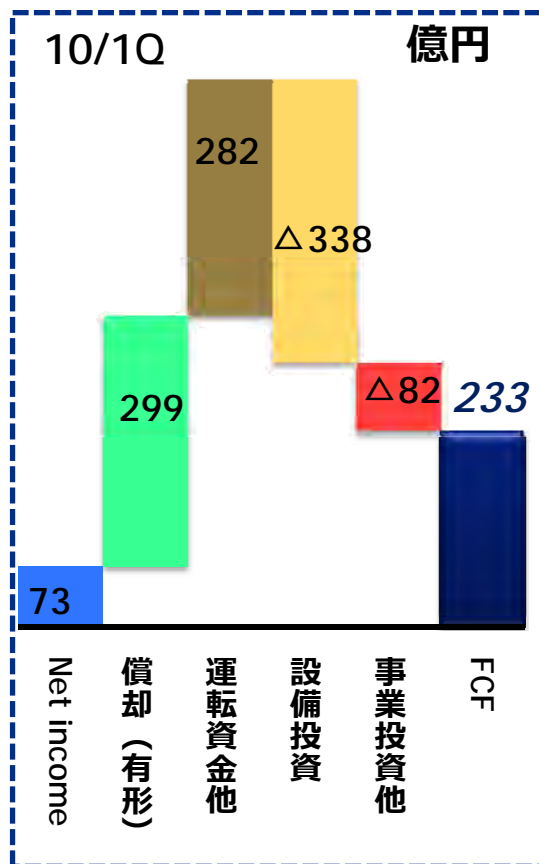
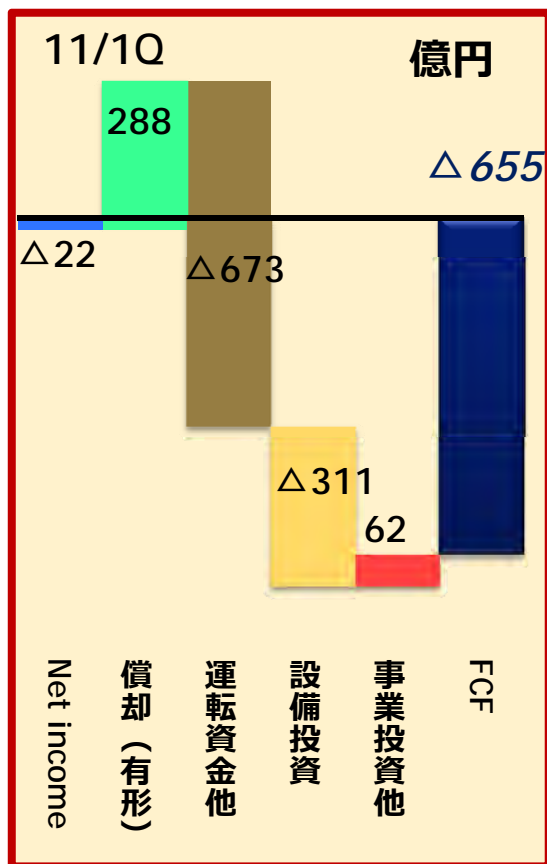
●持分法損益 <10/4Q>  $\Delta 68$ 億円 → <11/1Q> 47億円

- 震災損失影響を主体に借入金は増加

億円	10			11		%	11/3E 増減
	6E	9E	12E	3E	6E		
<b>【資産】</b>							
流動資産	6,079	6,226	6,189	6,479	6,328	△2.3	△150
固定資産	17,754	17,752	17,936	17,928	17,915	△0.1	△12
資産合計	23,834	23,978	24,126	24,407	24,244	△0.7	△163
<b>【負債および純資産】</b>							
流動負債	6,661	6,615	6,995	8,006	7,931	△0.9	△74
固定負債	8,716	8,679	8,492	8,220	8,136	△1.0	△84
純資産	8,456	8,682	8,637	8,180	8,176	△0.1	△4
借入残高	11,280	11,170	11,111	11,733	11,974	2.1	240
D/Eレシオ	1.42	1.37	1.37	1.53	1.56	-	0.03

# キャッシュフローの状況

Net income: 税前当期利益+法人税等支払額



	10/6E	10/9E	10/12E	11/3E	11/6E
D/Eレシオ	1.42	1.37	1.37	1.53	1.56
借入金	11,280 億円	11,170 億円	11,111 億円	11,733 億円	11,974 億円
現預金	236 億円	189 億円	197 億円	825 億円	334 億円
ネット借入金	11,043 億円	10,981 億円	10,913 億円	10,908 億円	11,640 億円

# 11年度見通し

# 11年度 販売量等の見通し

※住金小倉、住金直江津、住金鋼鉄和歌山を含む  
 ※見通しは全て概数

- 2Qから下期にかけて鋼材販売は順調に回復
- シームレスパイプ年間販売量は100万トンの想定

	10年度			11年度見通し				10年度増減
	1Q	上期	10年度	1Q	2Q見通し	上期見通し	下期見通し	
為替レート (円/\$)	92	89	86	82	80	81	80	6円高
粗鋼生産量 (万トン)	335	678	1,290	277	345	620	710	40
鋼材販売量 (万トン)	304	595	1,172	224	312	537	658	23
シームレスパイプ販売量(万トン)	23	46	96	23	25	47	54	4
鋼材平均単価 (千円/トン)	国内	92.7	98.1	101.5	113.2			
	輸出	82.3	84.3	86.3	96.6			
	平均	87.7	91.6	94.2	104.5			

億\$	10年度	11年度見通し
受取	52	67
支払	△52	△76
外貨バランス	0	△9

# 11年度 業績見通し概況

● 汎用品需給/原材料価格等の不透明要因はあるが、シームレスパイプの  
スプレッド改善やコスト改善等により、通期営業利益は900億円程度を見込む

億円	10年度	※見通しは全て概数				11年度 見通し	年度 増減
				上期 見通し	下期 見通し		
		1Q	2Q見通し				
売上高	14,024	3,068	3,900	7,000	8,300	15,300	1,275
営業利益	563	168	180	350	550	900	336
経常利益	340	190	210	400	600	1,000	659
特別損益	△620	△143	-	△140	-	△140	480
当期純利益	△71	32	120	150	350	500	571
EPS(円)	△1.54	0.70	2.59	3.24	7.55	10.79	12.33
EBITDA	1,825	456	490	950	1,200	2,150	324
借入残高	11,733	11,974	12,100	12,100	12,100	12,100	366
D/Eレシオ	1.53	1.56	1.56	1.56	1.50	1.50	△0.03



# 今後の損益変動要因

11/1Q → 2Q見通し

億円	1Q実績	2Q見通し	増減
営業利益	168	180	11
経常利益	190	210	19
特別損益	△143	-	143
当期純利益	32	120	87
EPS(円)	0.70	2.59	1.89

## 好転要因

- 販売数量の回復（約90万ト）
- 紐付価格改善の進行
- コスト改善

## 悪化要因

- ✓ キャリーオーバー
- ✓ 輸出薄板等汎用品市況

11/上期見通し → 下期見通し

億円	上期見通し	下期見通し	増減
営業利益	350	550	200
経常利益	400	600	200
特別損益	△140	-	140
当期純利益	150	350	200
EPS(円)	3.24	7.55	4.31

## 好転要因

- 販売数量の増加（約120万ト）
- 価格改善面積差
- コスト改善の進行

## 悪化要因

- ✓ キャリーオーバー
- ✓ 評価損益差

## 鋼板・建材

薄板：自動車向けは急回復、下期にかけてフル生産の見込み  
厚板：各分野とも概ね良好な需給状況、価格転嫁に注力  
建材：復興需要の本格化は下期以降

## 鋼管

シームレス：エネルギー開発の好調さに支えられ、各分野とも好調  
大径管：鹿島被災影響により1Q販売は減となったが、2Q以降は、  
中東地域での大型案件を主体に販売は回復する見通し

## スラブ

和歌山→鹿島への応援を実施するため、国内向け販売数量を調整

## 特殊鋼

4月を底として販売量は急回復。下期にかけても販売量は高水準

## 交通産機品他

鉄道車両品：堅調な国内に加え、米国向け需要も回復傾向  
クランクシャフト：1Qは震災影響があったが、下期にかけ挽回計画  
チタン：電力向け、航空機向け、海外プラント向け等好調に推移

# シームレスパイプ<sup>o</sup>需要・販売の状況

## ● OCTG / Line Pipe

- ➔ 各地域とも掘削活動は回復・活性化。加えて、今回の原発事故の影響による火力発電向け需要増により、天然ガス開発は更に伸長傾向。
- ➔ 堅調な油井管需要を背景に、価格は当面高位安定する見通し。
- ➔ Line Pipeは、上期の旺盛な需要が下期も継続する見込み。

## ● 特殊管

- ➔ 火力発電向けは、天然ガス発電排熱回収ボイラ (Heat Recovery Steam Generator) 向け鋼管需要が増加、石炭火力向けも回復傾向
- ➔ SG管は引続き今後の需要動向を注視

## ● 自動車・建機向け

- ➔ 自動車向けの一部で上期は震災影響が出たが、下期にかけて回復の見込み

リグカウント の状況	05年 平均	06年 平均	07年 平均	08年 平均	09年 平均	10年 平均	直近
米国	1,383	1,649	1,768	1,879	1,089	1,546	(11/7/22) 1,916
深井戸 (≥15,000ft)	199	225	222	283	249	249	(11/6) 370
北米・露・中 を除く世界	908	925	1,005	1,079	997	1,094	(11/6) 1,158

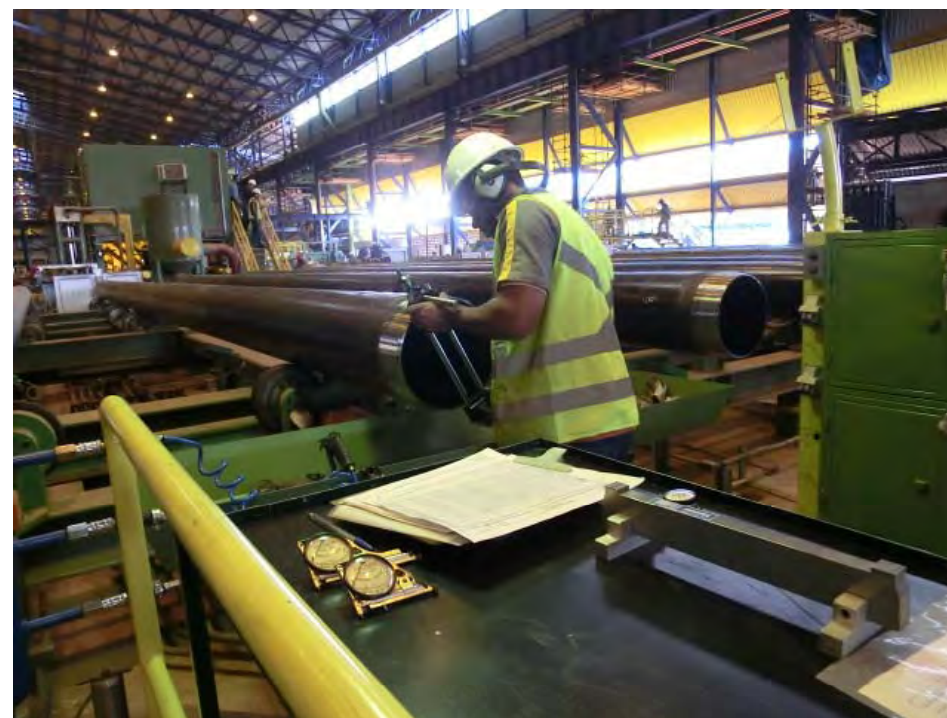
出所: Baker Hughes, Smith international

# VSB建設状況

- 上工程は2Q中の稼働開始を予定。(9/1 開所式開催予定)
- API規格や顧客認定作業を進め、来年度にかけ徐々に生産・販売量は増加。
- 本年度は立ち上げコスト等により赤字の見通し。



完成真近の高炉



ネジ切りライン

# 節電対応、電力需給への協力

- 節電目標については、自家発活用や操業体制の工夫等により各製鉄所とも生産に支障を出さずに、達成可能な見込み
- IPP・共同火力の自社発電設備については、発電増依頼に基づき、フル稼働体制を構築中

	鹿島共同火力				鹿島 IPP	和歌山共同火力		
	1号機	2号機	3号機	4号機		1号機	2号機	3号機
最大出力 (万kW)	35	35	35	35	47.5	7.5	7.5	15.6
震災前	稼働	計画停止	稼働	定期 検査	稼働	計画 停止	稼働	稼働
震災直後	停止		停止		停止		稼働	稼働
現在	4/16 再稼働		6/7 再稼働	7/20 再稼働	3/25 再稼働	7/12 再稼働	稼働	稼働



鹿島共同火力



鹿島IPP



和歌山共同火力

# セグメント・カンパニー別売上高等の状況

22

セグメント・カンパニー別売上高

※見通しは全て概数

億円					10年度	11年度 1Q	増減 YoY
	1Q	2Q	3Q	4Q			
鋼板・建材	1,356	1,437	1,412	1,290	5,496	1,043	△312
鋼管	1,220	1,214	1,273	1,358	5,067	1,223	2
交通産機品	234	250	232	273	991	241	6
住友金属小倉	304	367	374	401	1,447	323	19
住友金属直江津 他	130	129	122	131	514	140	9
鉄鋼セグメント計	3,246	3,398	3,415	3,454	13,516	2,972	△274
その他	169	122	104	112	508	96	△72
売上高計	3,416	3,521	3,519	3,566	14,024	3,068	△347

(参考) 鉄鋼セグメント主要カンパニー営業利益 (概数)

鋼板・建材	60	110	△60	50	160	20	△40
鋼管	鋼管	0	40	40	80	70	70
	スラブ	20	△30	10	△50	△50	20
住友金属小倉	0	20	20	20	60	0	0

鉄鋼セグメント計	126	184	34	156	502	164	38
その他	16	21	15	8	62	4	△12
営業利益計	142	204	49	165	563	168	25



## 利益配分に関する基本方針

- 「質」と「規模」のバランスの取れた持続的成長を通じて企業価値を最大化
- 事業が生み出すキャッシュは、企業価値を高める投資に充当
- 投資戦略は以下を基準に実施し、その成果を株主の皆様に還元
  - ➡ 差別化の加速に資する投資であること
  - ➡ 資本コストを上回る便益をあげて企業価値向上に貢献すること
- 配当は安定配当を基本とする

## 財務体質運営指針

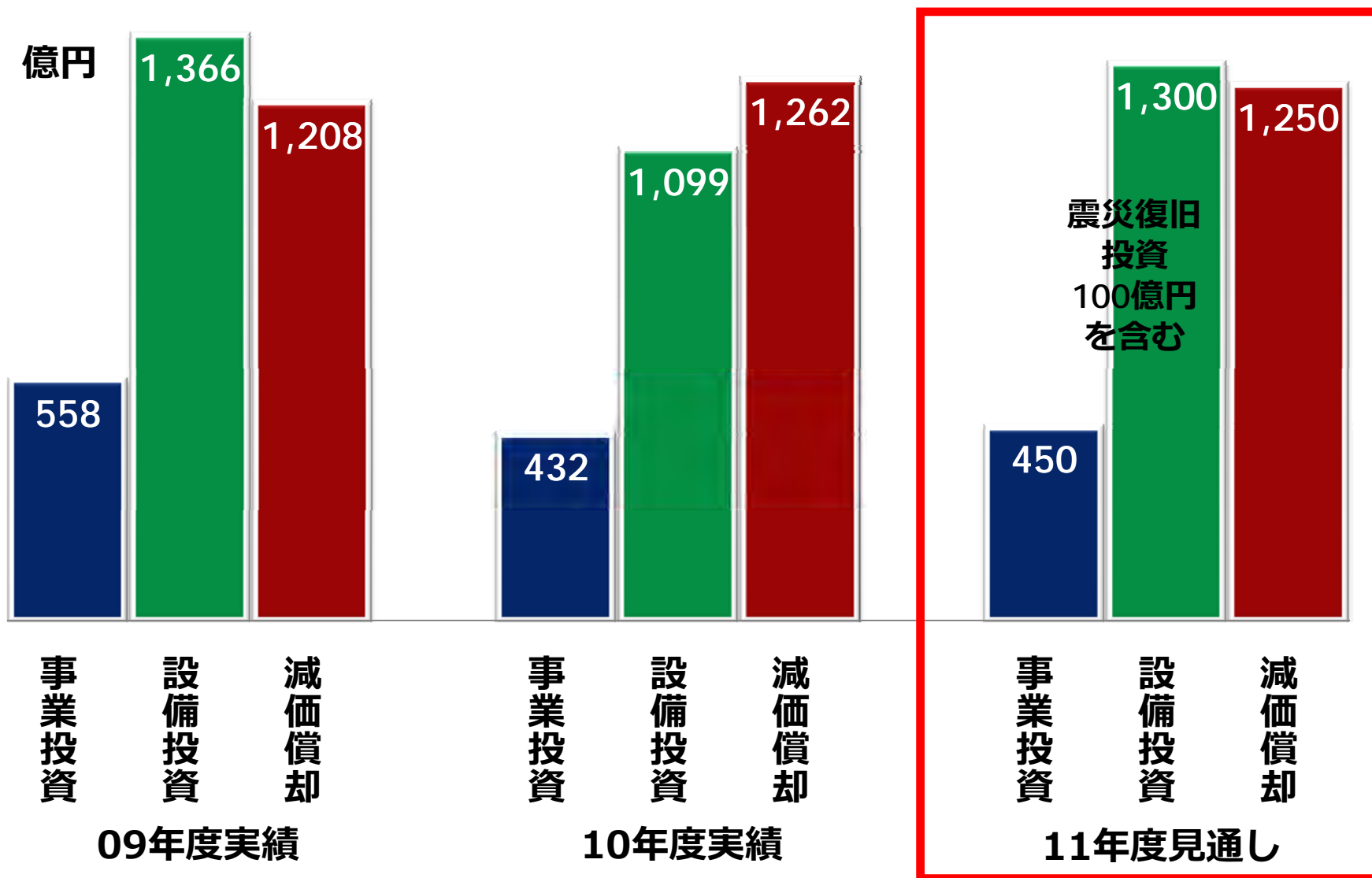
- D/Eレシオで 1.0未満を目標として運営

## 当期（12/3月期）配当予想

- 3.5円/株（中間配当 1.0円/株, 期末配当 2.5円/株）

# 事業投資・設備投資・減価償却費の見通し

設備投資額は工事ベース  
事業投資額は支払いベース





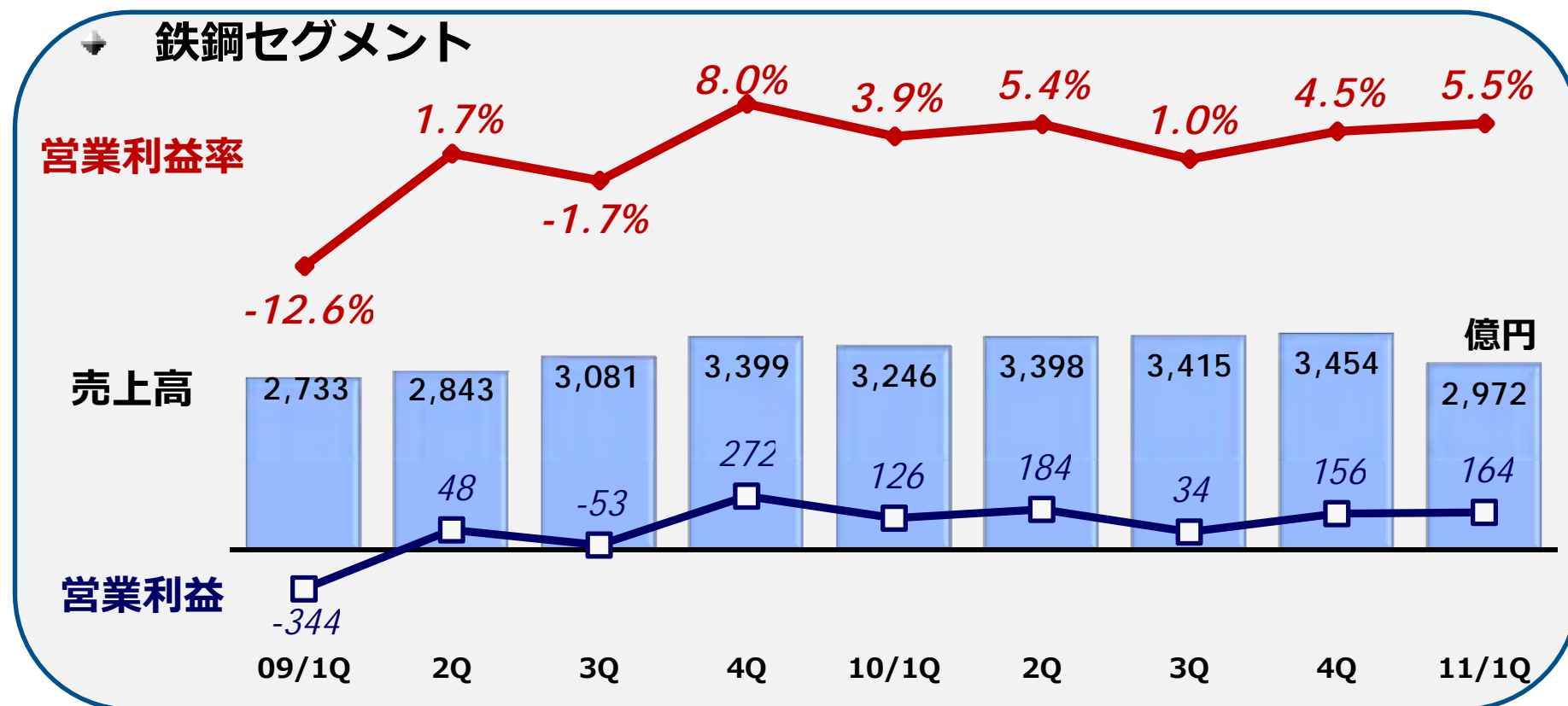
# 主要設備投資・事業投資の進捗

稼動予定年月で記載		投資額	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15
<b>設備投資</b>								
鋼管	和歌山上工程更新 新第2高炉+CC増強等	1,150 億円						
	超高強度ラインパイプ増産	100 億円		11/1				
	原子力発電用SG管増産	140 億円				13/4		
その他	住金小倉製鋼プロセス革新	270 億円		10/10				
	総合技術研究所リニューアル機能強化	100 億円				12/5		
<b>事業投資</b> (*JVの場合の投資額はJV合計額 []は当社出資額)								
鋼板建材	ベトナム薄板JV (CSVC)	*1,150 億円				12年		
	インドブーシャン社 オリッサ PJ " 西ベンガル PJ	技術援助 FS中						
	タイ カナドイル厚板ミル	[42億円]				13年		
鋼管	ブラジル高炉一貫 シームレス製鉄所(VSB)	4.7 billion BRL (VSB 資本金)		10/12 初製管				
				上工程	11年央			
交通産機	インドクランクシャフト合併 (SMAC)	*10 億円	● 10/4					
	米国スタンダードスチール買収	325million\$		● 11/6				

# 参考資料

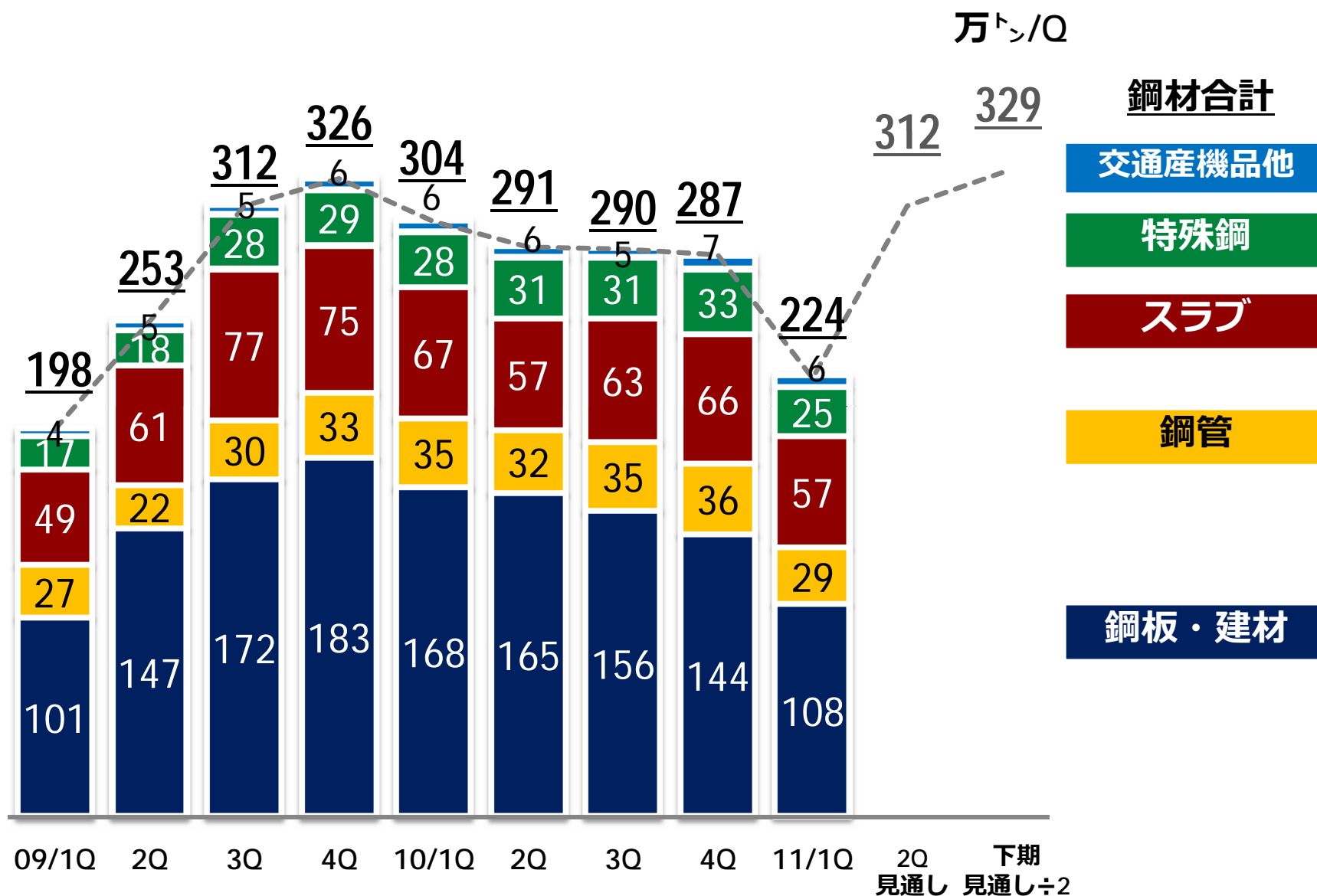
# セグメント別売上高・営業利益 四半期別推移

億円	09/1Q	2Q	3Q	4Q	10/1Q	2Q	3Q	4Q	11/1Q
鉄鋼	2,733	2,843	3,081	3,399	3,246	3,398	3,415	3,454	2,972
その他	171	238	178	211	169	122	104	112	96
売上高	2,904	3,082	3,260	3,610	3,416	3,521	3,519	3,566	3,068
鉄鋼	-344	48	-53	272	126	184	34	156	164
その他	-1	14	22	29	16	20	15	8	4
営業利益	-345	63	-31	302	142	204	49	165	168



# 鋼材品種別販売量推移

※見通しは全て概数

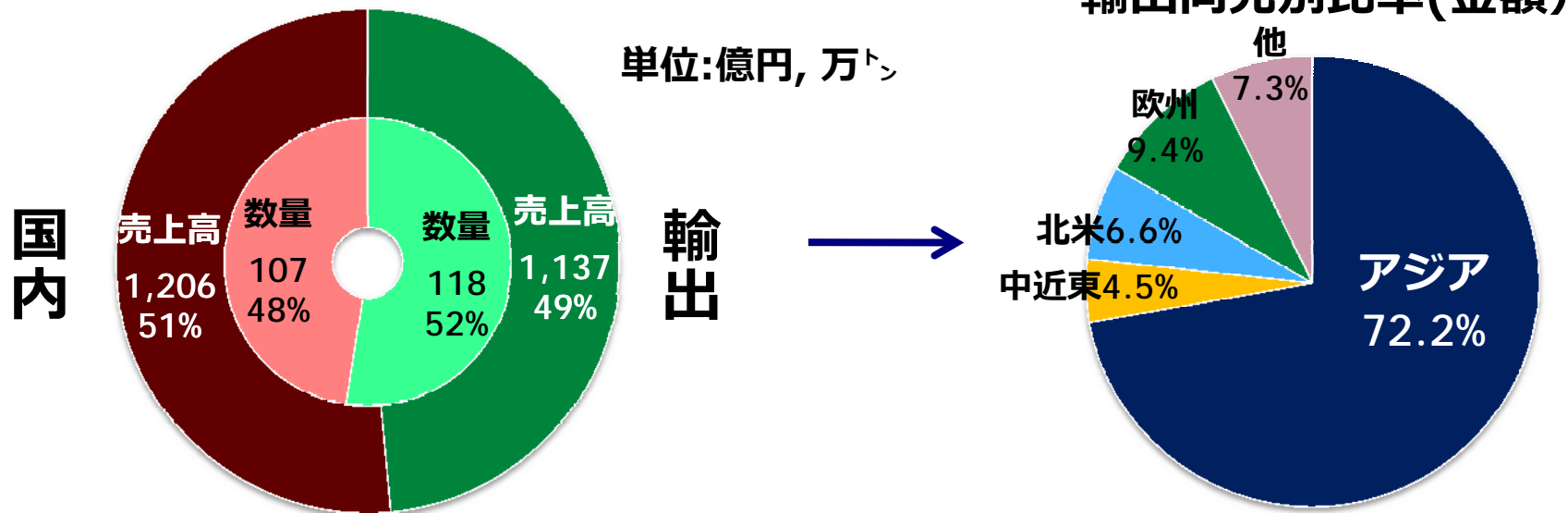


# キャリーオーバー等の影響額

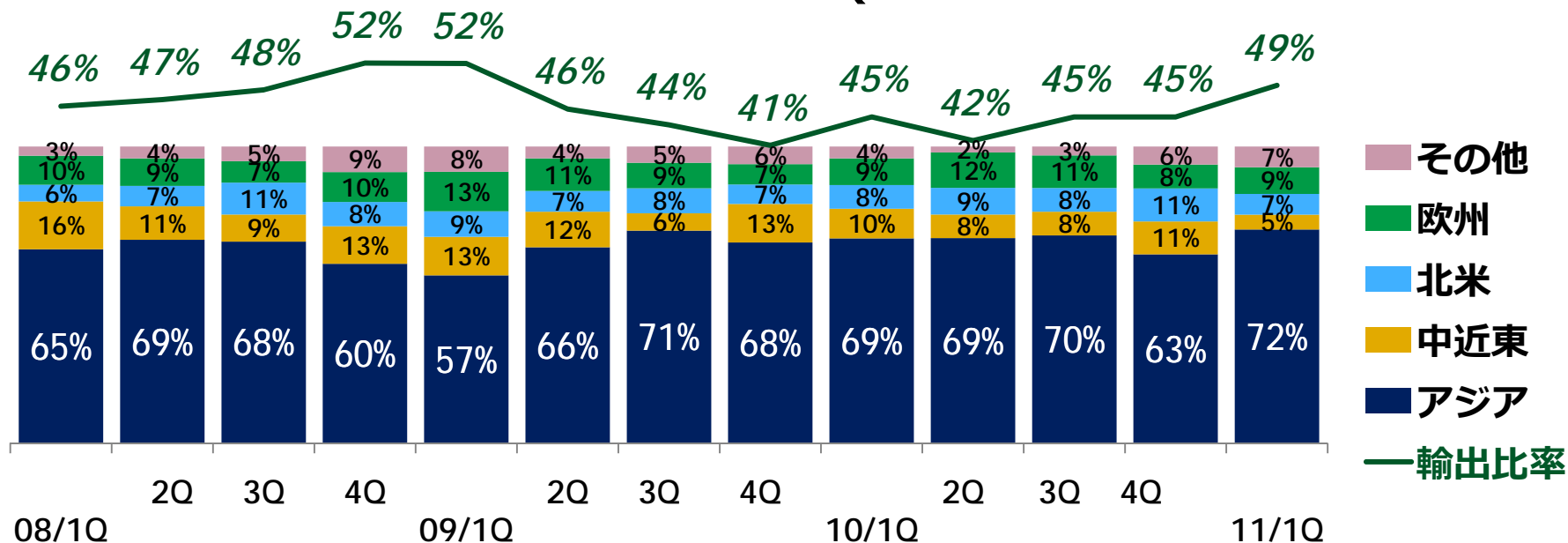
億円					10 年度	11年度 1Q	増減 YoY
	1Q	2Q	3Q	4Q			
キャリー オーバー	190	90	△90	60	250	180	△10
評価損益	160	40	60	△20	240	240	
原価差額 調整計算	△90	20	70	△30	△30	△170	
<b>評価損益計</b>	<b>70</b>	<b>60</b>	<b>130</b>	<b>△50</b>	<b>210</b>	<b>70</b>	<b>0</b>
期首戻し	50	50	40	70	50	30	
期末適用	△50	△40	△70	△30	△30	△10	
棚卸簿価 (低価法)	0	10	△40	40	10	20	20

\*全て10億円単位概数

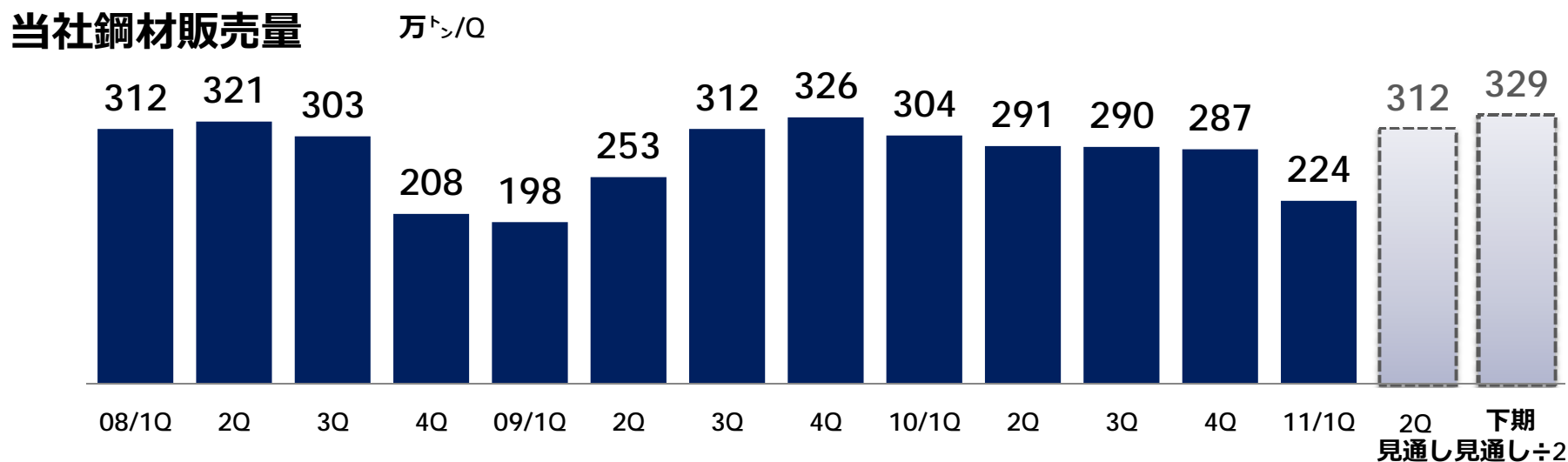
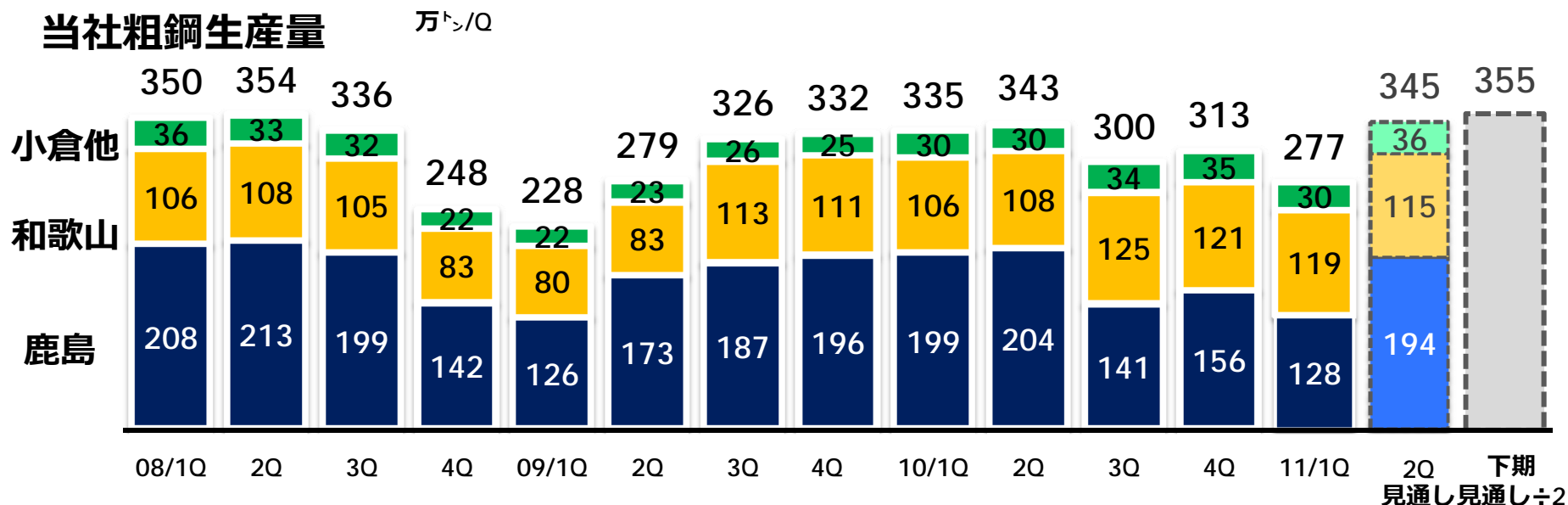
# 11年度 鋼材 国内・輸出別売上高



## 鋼材輸出向先別比率(金額) の推移

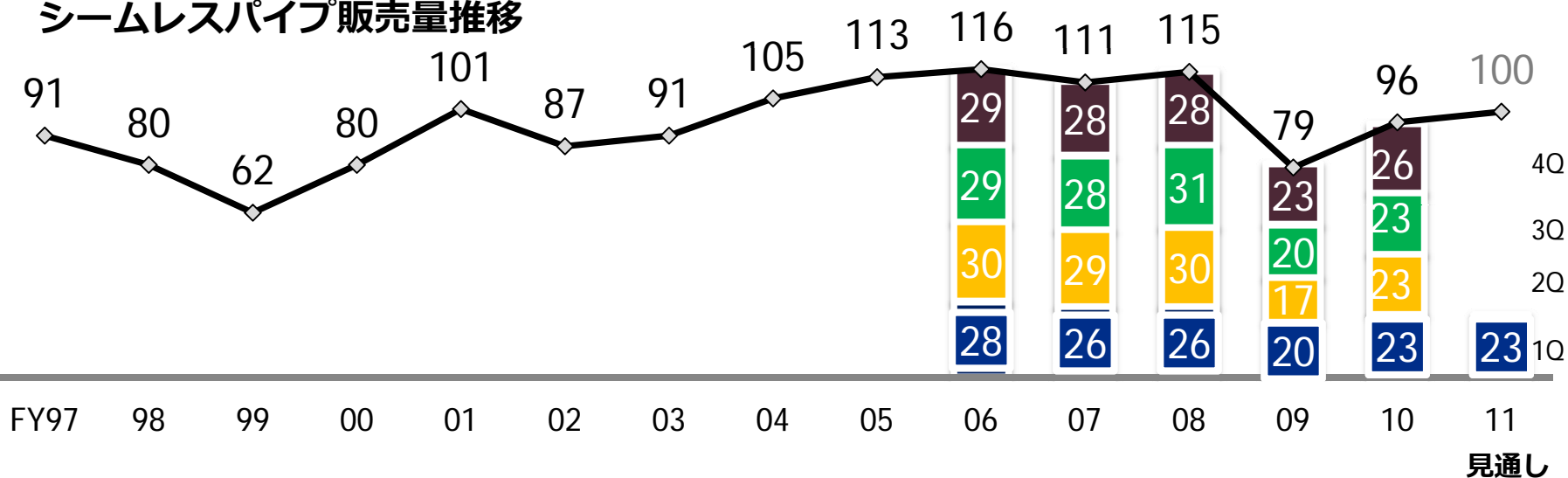


# 参考数値 (1)

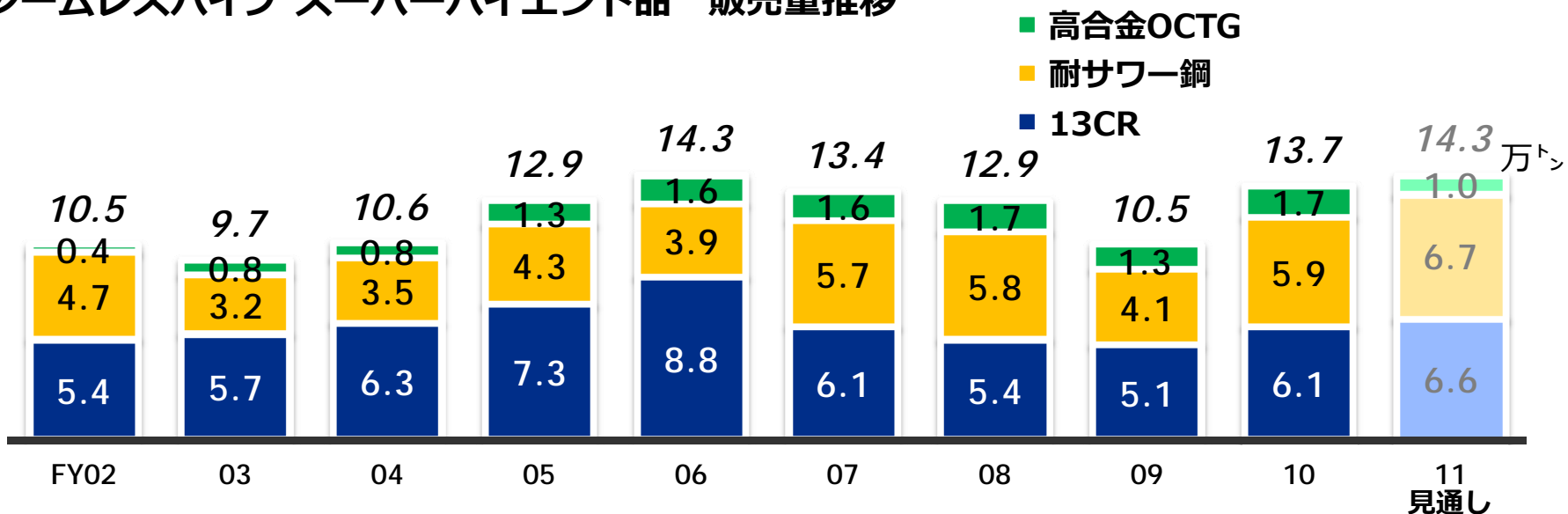


# 参考数値 (2)

## シームレスパイプ販売量推移



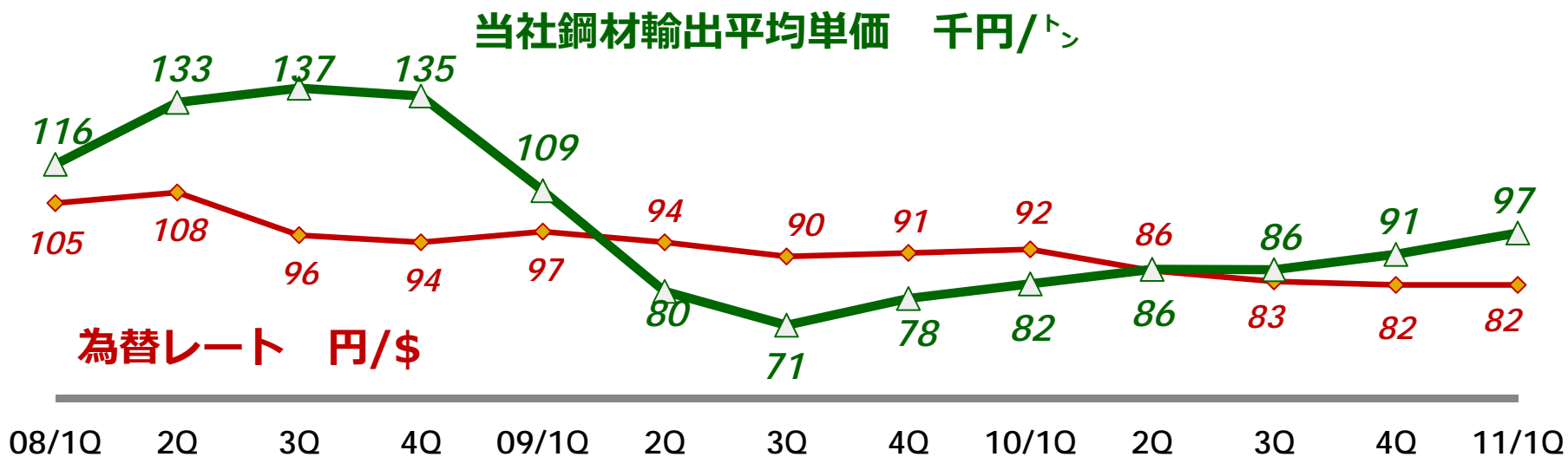
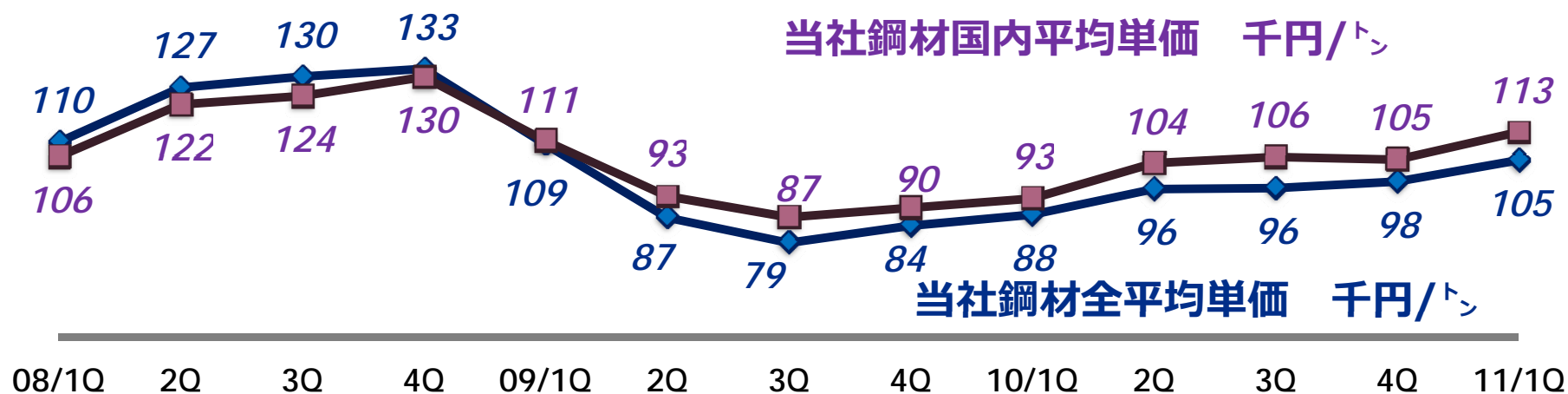
## シームレスパイプ スーパーハイエンド品 販売量推移





# 参考数値 (3)

※見通しは全て概数

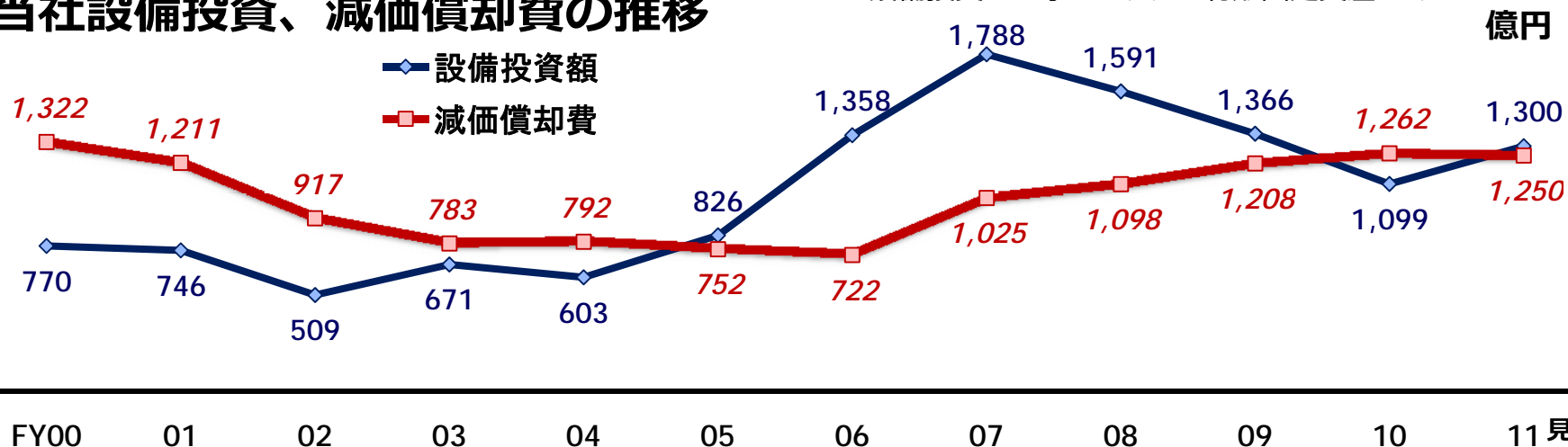


# 参考数値 (4)

※見通しは全て概数

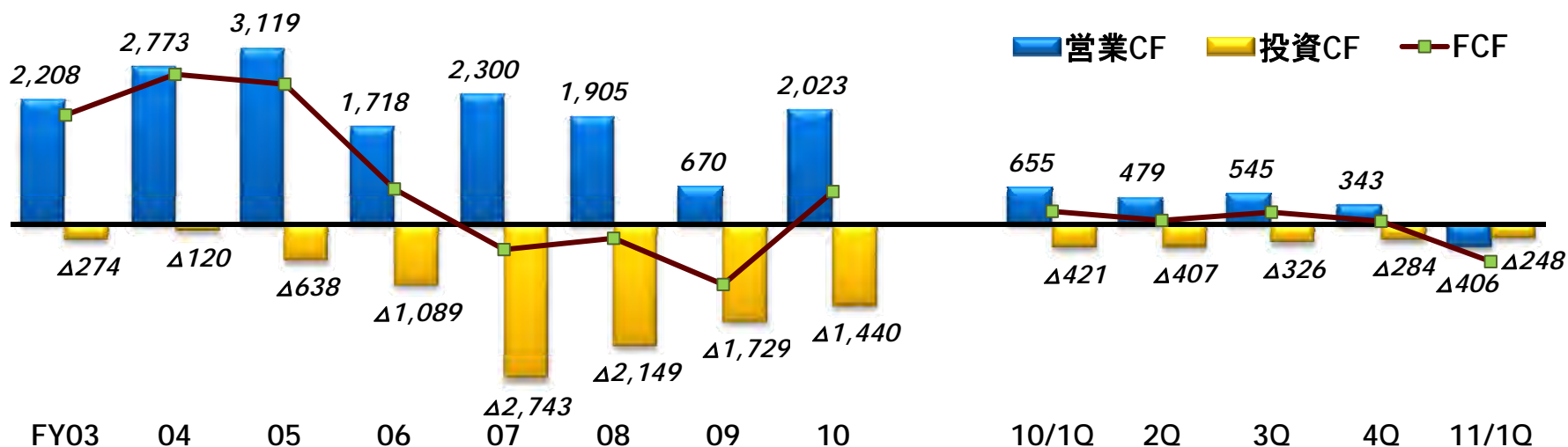
## 当社設備投資、減価償却費の推移

※設備投資は工事ベース \*有形固定資産のみ



## フリーキャッシュフローの推移

1,934 2,653 2,480 628 Δ442 Δ243 Δ1,059 583 233 72 218 58 Δ655 億円



「質重視」による企業価値の  
持続的向上を目指す



ステークホルダーの皆様から  
信頼される会社へ